

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：鳩の森愛の詩 宮沢保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：中島 真由美	定員（利用人数）： 66名（64名）
所在地：〒246-0038 横浜市瀬谷区宮沢2-26-2	
TEL：045-302-9495	
ホームページ： http://www.hatonomori.jp/	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 2012年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）： 社会福祉法人 はとの会		
職員数	常勤職員： 15名	非常勤職員： 8名
専門職員	保育士 15名	調理師 1名
	栄養士 2名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室4室、厨房1室、職員休憩室1室、事務室1室	

③理念・基本方針

保育理念

鳩の森は、子どもたちをまん中に保育者と父母が手をつなぎ合い、支え合い、成長し合うことを『共育て共育ち』と呼んで、日々の暮らしの原点にしています。なかまといっしょにあそび、思い描いたことを実現していく力、お互いを思いやる心を、人間として生きていく大切な根っこと考えます。

子どもたちは、平和な幸せな世の中をつくる担い手です。子どもたちのありのままの姿を受け入れ愛し、一人ひとりがかけがえのない存在として成長していくことを保障する育ちの場でありたいです。

保育方針

「ありのままの自分を愛せる子ども」「思いやりの心を持つ子ども」「自分で考え、行動できる子ども」「粘り強く挑戦する子ども」「しなやかな心と身体を持つ子ども」「なかまの中で自分らしさを発揮できる子ども」を育てます。

保育目標

- ◎自分らしさを尊重する中で、かけがえのない自分を育む
- 一人ひとりが安心して過ごすことのできる環境の中で、人との関係を育む
- 様々な体験を通して、心のままに楽しみ、豊かな感性を育む
- 主体的な考え、行動し、やりたいことを実現していく心と身体を育む
- なかまと様々な体験を通して、共感する心を育む
- なかまと繋がり、共に育ちあいながら、しなやかな心を育む
- なかまと過ごす中で、自分らしさを発見する力を育む

④施設・事業所の特徴的な取組

【身体づくり】

- ・積極的に園外へお散歩へ出かけ、自然の中で身体と心をたくさん動かす

【食べること】

- ・毎日の給食は、食の安全性にこだわり、旬の食材を活かした献立にしている。卵、牛乳乳製品を調理に使用しない「なかよし給食」に取り組んでいる

【生命・生きる力と共に】

- ・四季の変化を楽しんだお散歩や四季折々の行事を楽しんでいる
- ・動物の世話や野菜を育てることで、命の尊さを学ぶ

【真の文化・芸術と共に】

- ・本物の文化や芸術に触れる機会をできるだけ多く持つ
- ・保育の中で和太鼓や民舞を演じ、自ら文化的体験を味わう

【平和を願う】

- ・絵本やうたをとおして、平和を慈しむ心を伝える

【なかまと共に、大人の力も得て】

- ・あそびを通し、豊かに学び合う環境づくりを心掛けている
- ・なかまと共に、様々な体験を通し、大人に励まされながら自ら意欲的に学ぶ力を身につけていく

【一人ひとりを大切に】

- ・個を大切にするために、職員も子どももお互いに「名前」で呼び合う
- ・一人ひとり生まれたその日にお誕生日のお祝いをしている

【育ち合う力を信じる】

- ・小さな赤ちゃんやハンディキャップを持つ子どもたちも安心して育ちあう生活を目指している
- ・自分たちの生活を自分たちで作りだす毎日を大切にしている

【共に成長する喜び】

- ・たくさんの保護者とのつながりや、よりより保育園の活動を支える「保護者会」の活動を応援している
- ・子どもたちを真ん中に、保育者と保護者が手をつなぎ合い、成長し合う「共育て・共育ち」を何よりも大切にしている

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年5月10日（契約日）～2021年3月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2015年度）

⑥総評

◆特に評価の高い点

- ・保育士に優しく見守られ、子どもたちは自分の思いを素直に表し、園生活をのびのびと楽しんでいます。

保育士は、子どもの話に耳を傾けて子どもの全てを受けとめ、子どもの要求に優しく応えてスキンシップを多く取り、子どもとの信頼関係を築いています。子どものやりたいという気持ちを大切に危険がないように見守り、遊び方のヒントを出したり、一緒に遊んで手本を見せたりし、できた時には一緒に喜び子どもに共感しています。保育士に見守られ、子どもたちは園庭で思いっきり身体を動かしたり、木登りや鉄棒に挑戦したり、友だちとごっこ遊びをしたり、保育室で集中して作品作りをしたりして、それぞれが意欲的に遊ぶ力を身につけています。異年齢の関わりも多く、年上の子どもがそれとなく世話をしたり、年下の子どもが真似をして挑戦したりする姿があります。歌や製作、リズム、民舞、和太鼓など、子どもが自分を表現できる活動も多くあります。子どもたちは、自分の思いを言葉や身体で素直に表現し、園生活をのびのびと楽しんでいます。

・職員は常に自己の保育を確認・振り返りをして学び、目指す保育の実現に向け連携しています

職員は、毎日の昼の報告会、毎月の職員会議、クラスや乳児・幼児でのカリキュラム会議などで、子どもの状況について話し合い、保育の内容が保育理念に沿っているかを常に確認しています。年度末の総括会議では、保育内容、園庭、異年齢、保護者、行事などの項目ごとに年度の振り返りをしています。園庭の改善に向けての園庭ワークショップやその月の出来事から各自がテーマを決めて振り返る月次報告の発表など、学びの機会も多くあり、自己の保育を振り返る機会となっています。このように話し合いの機会を多く持つことで、職員間の連携が深まり、目指す保育の共有が図られています。

・地域との良い関係を築いています

園は、地域との関係作りに力を入れています。異世代交流として老人ホームを訪問したり、園児の祖父母や地域住民を招待して正月遊びを楽しむ「伝承遊び会」を開催する、などしています。地域子育て支援としては、平日の園庭開放や育児相談、一日動物村などを実施しています。保育士が地域の子育てサロンに隔月参加するなど、地域の子育て支援事業にも協力しています。地域連合自治会とは、定例会に園長が参加するほか、連合自治会の文化展に子どもと職員の作品を展示したり、敬老会で荒馬踊りを披露するなどし、交流しています。連合自治会との合同防災訓練には子どもたちも一緒に参加し、起震車や煙訓練を体験をするなど、地域との良い関係ができています。

◆改善を求められる点

・職員が自分の将来の姿を描けるよう明確なキャリアパスの仕組みを構築されることが期待されます

園は、人材確保を重点目標に掲げ、人材育成や働きやすい環境作りに取り組んでいます。ノンコンタクトタイムを導入し事務仕事の見直しや効率化を図るなどの取り組みをしています。人材育成にも力を入れ、研修の充実を図るなどしていますが、人事基準を明確にし、キャリアパスの仕組みを構築するまでには至っていません。職員が自分の将来の姿を描けるようなキャリアパスの仕組みを作り、職員に明示することが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

私たちは「今日〇〇くんがこんなことしてね、△△ちゃんがそれを見ていて□□って話していたよ」等と子どもたちのエピソードを話す機会がとても多いです。子どもたちの姿や成長が嬉しく、次はどうしようかと期待を膨らませているからこそその文化だと思えます。今回たくさんのお話し合いの場が作られ、職員同士学びあい、確認しあえたことが自信とも変わりました。保育園という共育で共育ちの場をより豊かに、安定したものになれるように努力を重ねていきたいと思えます。

(園長：中島 真由美)

評価を受けるということは、やや抵抗したくなる緊張もありましたが、職員みんなで日頃の保育を振り返る話し合いができました。お互いの保育に対する思いを再確認でき、一人ひとりが前を向いて保育をしている思いも見聞きする貴重な取り組みとなりました。当たり前のように行っていることも子どもにとってどうなのか、保護者にとってどうなのか、悩みながらもこだわってきた「寄り添うこと」が、総評の中で「自己肯定感につながる」とお話もいただき、私たちの目指す保育の先が明るく照らされた気持ちになりました。

(主任保育士：山田 あき)

第三者評価を受けるにあたって、普段の保育を振り返りながら語り合い、学びを深められたことはとても貴重な機会だったと思えます。また、一人ひとりを見つめ、子どもたちにもおうちの方々にも徹底的に寄り添うことを大事にしている私たち。そのことを高く評価していただいたことに自信をもって、さらに豊かな保育が創れるよう、職員みんなで力を合わせていきたいと思えます。

(副主任保育士：湯田 麻美)

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり